

稲城野草散策の会

野草スケッチ シュンラン（ラン科）



絵と文：T a（広沢）

【シュンラン】

稲城市に南山（みなみやま）と呼ばれる丘陵がある。京王相模原線の稲城駅から数分で行ける距離だ。余談だが、地図で調べても「南山」という地名はない。地図上では、「東長沼〇番地」だったり、「奥畑」といった地籍が表示されている。つまりは、田圃や畑と同じ扱いなのだ。だから土地の人は、目立つ一角を通称で呼ぶ。南山もそうした通称である。

南山は雑木林である。

ナラ、カエデ、シデ類などの落葉樹の高木が疎らに生え、低木類が間を埋めている。谷筋、尾根筋などには軽四輪が辛うじて通れる道があり、奥の畑へつながっている。林の中は、けもの道のような、道ともいえないような道がついている。あまりひどい藪でなければ、道以外のところも歩くことができる。

2月の南山でシュンランの株を数えたことがあった。ざっと見渡したところ、半径10m以内に10株以上が生えている。花はまだ咲く時期ではないが、つぼみを持った株がある。軽い藪こぎをしながら10分ほど探しまわった。結果は108株。おおよそ半分ほどの株につぼみ（花芽）がついていた。これだけの密度で生えているのはすごいことだと思う。

シュンランは3月末から4月にかけて花を咲かせる。あるとき、花びらの先端が、途中から切取られたように欠けている株を見つけた。子供のいたずらにしてはおかしいし、藪の中なので、子供が入ってくるような場所でもない。見ると、同じように先端を切取られた花が、そこかしこに何株もある。はて、どうしたのだろうか？さらに見ていくと、つぼみの上部が切取られている株がいくつかあった。その状態で健気にも花を開いたため、花びらが寸詰まりになったのだ。つぼみを切取った犯人は誰だ？昆虫？つぼみの先端だけを切取る昆虫っているのだろうか？ウソという鳥が桜のつぼみを食いちぎるそうだが、藪の中のつぼみをついばむ鳥がいる？いや、鳥にしてはおかしい。刃物を使ったようなスパっとした切り口だ。

思い当たることがあった。昔、信州の山の中で、家庭菜園に植えた枝豆の苗を、同様の手口(?)でスパッと切り落とされたことがある。そのときも犯人探しに苦労したが、結論はノウサギだった。これもノウサギの仕業・・・と考えれば、辻褄が合うのではないか。近くを探した。あった。犯人の遺留品？紛れもないノウサギの糞だ。まだ生新しいものもある。ノウサギがシュンランのつぼみを一生懸命食べている様子を想像すると、なんだか微笑ましい。花の中心部、雄しべ雌しべのある部分を残して食べるのは、ウサギ界の作法？なのだろうか。種子ができなくなるとは、やがて自分たちも困ることになる、と知っているのだろうか。単に中心部が不味いだけのことなのだろうか。

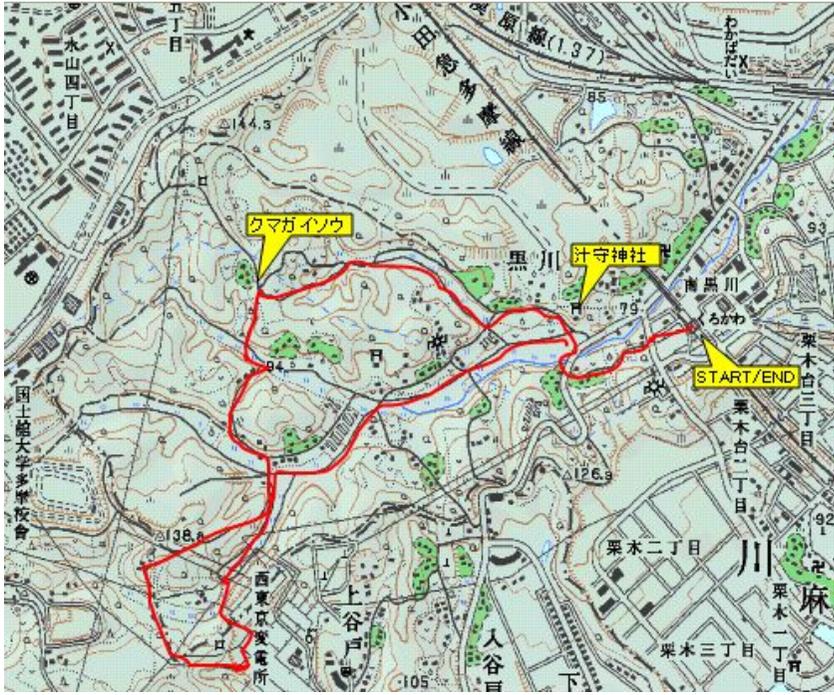
まあいい。シュンランはたくさんある。ノウサギ君たちもがんばってくれよ。

2005/4/17 (日) 三沢川下り

項目	説明
集合	am10時、京王相模原線・若葉台駅 改札口付近 ※会旗目標 若葉台駅の改札口は一個所だけです
交通	京王線調布駅から相模原線橋本行快速または各停で5駅目 小田急、多摩モノレールの場合は、多摩センター駅で京王線に乗換えて2駅目 若葉台駅には急行は停まりませんのでご注意ください
行く先 (解散場所)	若葉台駅から三沢川に沿って稲城駅まで歩きます。 稲城駅 pm4時頃解散予定
見所 その他	三沢川流域には雑木林や谷戸田など、豊かな自然が残っています シロボウエンゴサク、イチリンソウ、タマノカンアオイ、クチナシグサ、ノジスミレ、ゲンゲなどの花が見られると思います
地図	
コース	〔コース〕 若葉台駅→稲城高校前→稲城キャンプ村周辺→天神台→高勝寺→清水谷戸→駒沢学園→百村→京王稲城駅(解散) 行程5～6km、アップダウンはほとんどありません コースは天候その他により変更する場合があります ご用のある方は途中で抜けても構いません

※小雨決行 参加申込み不要、会費当日300円。

2005/4/24 (日) 黒川

項目	説明
集合	am10時、小田急多摩線・黒川駅南口階段下 ※会旗目標 改札口は一個所だけです
交通	小田急線・新百合ヶ丘駅より唐木田行きに乗換えて3駅目 京王線利用者は京王相模原線・若葉台駅から徒歩（10分弱）が便利、または京王相模原線・永山駅で小田急多摩線に乗換え2駅目です
行く先 (解散場所)	川崎市・黒川 黒川駅に戻ってpm3時頃解散予定
見所 その他	その他 黒川の里山を歩いて、林・畑・水田などの環境による植生の違いを観察します。身近な植物をじっくり見直してみましよう 汁守神社でヒメハギの花、タマノカンアオイの花も見られるでしょう クマガイソウ（植えられたものですが）の花も見られると思います
地図	
コース	黒川駅前～汁守神社～黒川谷戸（昼食）～汁守神社～黒川駅 解散 15時頃。行程は4kmくらいで、歩きやすい道です コースは天候その他により変更する場合があります ご用のある方は途中で抜けても構いません

※小雨決行 参加申込み不要、会費当日300円。

〔観察記録〕 2月6日 東京) 冬芽入門オフ shuku

(観察会に参加された shuku さんの記録です。)

【場 所】 京王よみうりランド駅前～ありがた山石仏郡～京王稲田堤駅
冬芽入門オフに参加してきました。久しぶりに登った@ありがた山からは、遠く雪を纏った日光の山々が見えました。記録は出現順です。確認できたもののみ。実際にはもっと観察しているはずなのですが、メモ忘れと物覚えが悪くて。。

あ、忘れないように(⇒自分が) T aさんが説明してくれた陰芽・葉柄内芽・副芽を書き出してみました。これも覚えているもののみです(〇^ゞ

イチョウ、ガマズミ、アラカシ、ウラジロガシ、コナラ、ヤマコウバシ、ムラサキシキブ、クロモジ、アカシデ、アオハダ、ヤブムラサキ、ヤマツツジ、クマノミズキ、イタヤカエデ、ネムノキ、ヤマトアオダモ、ヤマハンノキ、クマシデ、ゴンズイ、コウヤボウキ、ヌルデ、ニセアカシア、クズ、ハコネウツギ、サルトリイバラ、ユズリハ、ハクウンボク、ナツハゼ、サワフタギ、マルバウツギ、ウツギ、マルバアオダモ、シラカシ

【よく似たものとちょっと変わった冬芽】

@葉や花の似たもの：ミズキとクマノミズキ

(花や葉がそっくりのこの二種も冬芽で見れば一目瞭然！)

- ・ミズキの冬芽には芽鱗があり長楕円形で真っ赤。
枝先も赤みを帯びることが多い。枝は互生。
- ・クマノミズキの冬芽は芽鱗がなく(＝裸芽)、形は万年筆の筆先に似ていて黒褐色。枝は対生。

(見慣れると樹形もずいぶん異なっていることがわかる)。

@冬芽の似たもの：ウツギとマルバウツギ

- ・ウツギの芽鱗の毛＝星状毛。
- ・マルバウツギの芽鱗の毛＝寝た毛(＝伏毛)。

@冬芽の似たもの：サワフタギとアオハダ

- ・サワフタギの枝先には曲がった毛(屈毛?)が残っていてザラつく。
- ・アオハダの枝先は無毛。

@冬芽の似たもの：ムラサキシキブとヤブムラサキ

- ・ムラサキシキブの枝先には星状毛が少し。
- ・ヤブムラサキの枝先には星状毛が密生！

*ちょっと変わった冬芽

1) 隠芽＝樹皮や葉痕(葉の付いていた痕)の中に隠れている芽のことです。

- ・キウイ（こんもり盛り上がった葉痕に半分隠れている。
毛がもしゃもしゃ生えていてキウイのお尻みたい(´o`ゞ)
- ・ニセアカシア（対生したトゲの間に隠れている。デ、デビルマン!）
- ・ネムノキ

2) 副芽＝主芽と並んで出る予備の芽のことです。主芽が何かのアクシデントで枯れたり取れてしまうと代わりに副芽が芽吹きます。

ここでは主芽の下につく「重生芽」を観察しました。

- ・コゴメウツギ
- ・エゴノキ
- ・ハクウンボク

3) 葉柄内芽＝葉柄の中に隠れている芽のことです。

葉柄の基部が冬芽を包んでいるので、葉が落ちてはじめて芽があることがわかります。

（逆をいうと）冬芽の周りを取り囲んだ葉柄の痕（葉痕）があれば葉柄内芽。

- ・ニセアカシア
- ・ヌルデ
- ・サルトリイバラ（葉柄と蔓の基部に隠れています）
- ・ネムノキも

〔観察記録〕 2月13日 北鎌倉～源氏山～鎌倉

ますますの天気でしたが、87名もの大勢の方の参加があり、びっくりしました。今年の行事予定の葉書を見て参加された方も多かったようです。

北鎌倉駅から小袋谷、巖島神社を通過して成福寺へ。ここではタラヨウ、ビャクシン、カワツザクラ、ジュウガツザクラ、ニッケイなどを見て、ミモザの木のある山崎小学校へ。学校の裏手から狭い道を通って鎌倉らしからぬ雑木林を抜けて行きましたが、シンチョウゲの仲間のオニシバリの花やカントウカンアオイの花も咲いていました。

オニグルミの冬芽を見て、その下にセイヨウバクチノキもありました。

葛原岡神社の手前にサイカチの大木がありました。記憶に残ったのはそんなところでしょうか。そのほかにはシダもいろいろ観察出来ました。

〔ギョウリュウバイ〕

コースの途中で、ギョウリュウバイ（魚柳梅）を見かけました。フトモモ科で、オーストラリア原産。花は小さく、薄い色から濃い赤色まであります。今回の木は立った木でしたが、以前四国で玉ものに仕立てられたみごとなギョウリュウバイを見ました。

